



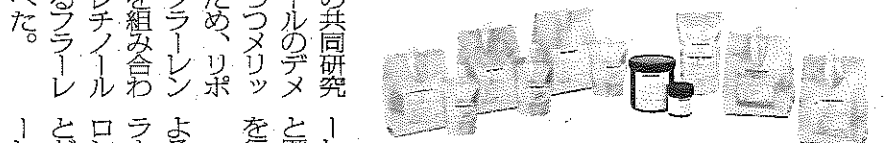
林社長

ビタミンC60バイオリサーチ プースNo.C1-5

フラレンの新データを初披露
SDGsの取り組みもアピール

フラレン化粧品原料に向けてアピ
の製造販売に加えて輸入
原料も手がけるビタミン
C60バイオリサーチは、
前回の2小間から4小間
に倍増し満を持して臨む
今展示会で、植物由来化
を果たした全6種類(写
真)のフラレン原料を
改めて紹介する。

ブースではこのほか、
県立広島大学・齋藤靖和
教授との共同研究によ
り、100%植物由来の
浸透型リポソーム化用原
料「モイストフラレン
N」とレチノールを組み
合わせ、ヒアルロン酸産
生効果を検討した最新の
研究成果(特許申請中、
図参照)を発表し、さら
には同社が推進するSD
Gsの取り組みも来場者



この結果、レチノ
ール単体で使用する
よりも、レチノール
とフラレンを併用
することで、表皮細
胞のヒアルロン酸産
生をさらに促進する
効果が確認された。

会期2日目の5月
20日に開催される技
術発表(10時15~45
分、A会場)でも、「ナ
チュラルでサステナ
ブル 植物由来フラ
レンと化粧品の未来」
と題し、研究成果の発表
を行う予定だ。

「共同研究では併用
による効果だけでなく、フ
ラーレン単体でもヒアル
ロン酸量を増加させるこ
とが明らかとなり、フラ
レン全種類の中でモイ

ストフラレンNが最も
効果的だった。拡大する
シワ市場に有効なデータ
といえる。フラレンは
元々、抗酸化作用がメイ
クの原料で、ヒアルロン
酸の産生促進を想定して
おらず、今後の研究次第
で様々な知見や作用が得
られるものと期待してい
る(林源太郎社長)

SDGsへの取り組み
では、FSC認証を取得
した森林から採取した
木を植
物由来
フラ
レンの
原料と
してお
り、森
林資源
や再生

可能エネルギーである水
力発電を利用し、持続可
能な製品開発を実現して
いる。

また、水溶性植物由来
フラレンの「ラジカル
スポンジN」では、世界
各国で安心して使用でき
るよう、ハラル認証を
取得。さらに、労働環境
に關して産休・育休・時
短勤務などの社内制度を
整え、産休後の復帰率は
100%を達成している。

